

木之本地蔵院と蛙

木之本地蔵院の木之本宿における立地は、その重要性を示唆している。木之本地蔵院はもともと木之本宿の中心であった。この寺には、空海（774-835）や足利幕府をひらいた足利尊氏（1305-1358）といった、多くの著名な歴史上の人物が訪れたと言われている。

この寺院の本尊は、地蔵菩薩の像である。この地蔵菩薩は目の病を治すと信じられている。

寺の言い伝えによると、庭に住むカエルは、苦しむ参拝者に同情し、参拝者に代わって地蔵

菩薩に祈りを捧げるという。参拝者が地蔵菩薩の助けを得ると引き換えに、カエルは片目を

閉じる。その感謝の気持ちを表すために、参拝者は寺のあちこちに無数の小さな片目のカエル

の像を残している。

現在では、参拝者は真っ暗闇の階段を下り、曲がりくねった真っ暗な回廊を、壁だけを頼りに

歩くことができる。この体験は、精神的に浄化されると考えられている。